

4 大地のつくり



鶴形より向能代の大地を望む

1 地形のあらまし

(1) 山地

世界遺産に登録になって急に有名になった白神山地は、能代市にもその一部があります。焼山（963.1m）は常盤川の上流にあり、山地はとてもけわしく、簡単に入りにくいところです。

(2) 平野

山地の南西には広い台地が開けていて、能代平野とよばれています。

台地は数段の段丘からできており、平らな面（段丘面）とがけ（段丘がい）からできています。その段丘の最も低いところは沖積面とよばれ、今から1万年前からでき始めた平地です。

(3) 砂丘

能代平野の海よりには砂の山がつくられていて、能代砂丘とよばれています。昔は飛砂がはげしく、昔の人々はたいへん苦労したようです。

砂丘の中からは、火山灰や花粉の化石などが見つかっています。

2 地質のあらまし

(1) 200万年より古い地層

能代市の最も古い地層は中生代の終わりごろにできた花こう岩のようですが、地下深くにあってわたしたちの目にふれることはありません。その後地面がしずみ、そこは海となり、火山が噴火したり、どろや砂、小石、火山灰などが積もったりしました。

(2) 200万年より新しい地層

地面がしずみ、皿のような形をした海底も、やがていろいろなものが積もり、しだいに浅くなりました。そして、最後には細かい砂の層をつくって皿の海はうめつくされてしまいます。

その後、気候が変化したため海水面が下がりました。うめつくされた海底が陸地になり、そこを米代川がけずり、谷をつくりました。

さらに時代が進むと、こんどは海水が谷間に入りこみ、小石や砂などが積もり、新しい地層ができました。

3 山地

(1) 尾根のようす

能代市のまわりを見わたすと、たくさん山が見えます。北の方角には白神山地を頂点として、たくさん山がつながって見えます。

尾根はせまく、両側が急な角度になっています。そのため、雪どけのころは、がけくずれが多く起こります。

(2) 谷のようす

山と山の間を水が流れ、土地がけずられて谷ができました。谷はするどいVの字のように深い谷（V字谷）となっていて、人々が入りこむことがむずかしい地形となっています。

(3) 丘陵のようす

能代平野の北東をながめると、たくさん山が見えます。それらの山々と平野の間に、なだらかな小山が見られます。これは丘陵とよばれ、ふつう300mより低い、なだらかな山をさしています。能代平野と山地の間に帯のように広がっています。



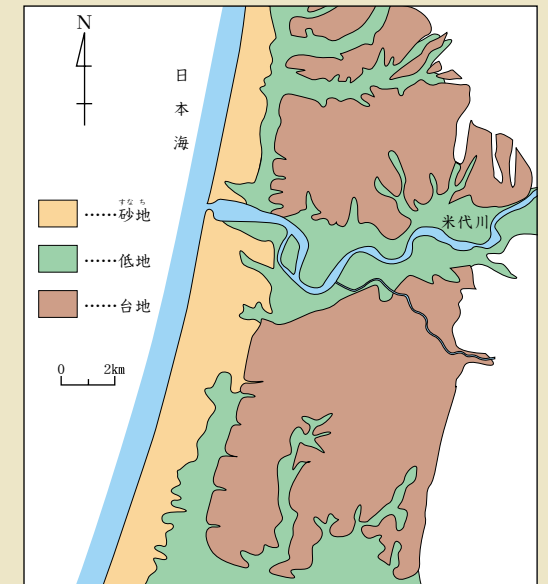
尾根（常盤川上流）



丘陵（向能代の東部）

4 平野

(1) 能代平野のつくり



能代平野のようす

米代川を中心として南北に広がっている平野です。海岸線にそって砂丘があり、米代川の左右には平らな低い土地（低地）があります。そのほかに、少しだけ高くなっている台地が広がっています。よく観察すると、高さのちがいがあがり、階段のようになっています。



V字谷（常盤川上流）